

# JSCA九州 1-版

発行・日本建築構造技術者協会九州支部  
 TEL 092-406-7204 / FAX 092-406-7214  
 Web Site : <http://jscakyushu.jp/>  
 E-mail : [info@jscakyushu.jp](mailto:info@jscakyushu.jp)

## 2020年巻頭言



2020年新年のご挨拶



2020年 1月 JSCA九州支部長 今林 光秀

JSCA九州会員ならびに賛助会の皆様、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

暖かなお正月となり、皆様におかれましては穏やかに新年を迎えられたことと存じます。

私は令和ゆかりの神社として有名になった坂本八幡宮に初めて初詣に行き、そこから大宰府政庁跡などを散策しながら歩いて太宰府天満宮へ行き参拝しました。歩いてみて初めて分かったのですが、クランクした道やその周囲に点在する寺社やお地蔵様、背景の山並みなど趣きに富み、車など無い昔の人々の気品をちょっとだけ感じられた気がしました。何ごとも便利になりスピードと効率が中心の昨今ですが、ゆったりと空気感を感じ考える大切さを、建築と言う空間創造に携わる者への教訓として改めて認識させられました。

話は変わりますが昨夏に、一度行きたいと思っていた建築に会いに北欧へ行きました。

フィンランドのヘルシンキにあるテンペリアウキオ教会（通称“岩の教会”）です。



ヘルシンキ市内の公園にある岩山をダイナマイトによって1年3カ月かけて少しずつ爆破してくりぬいて内部空間を創り、その上に美しいドーム屋根を載せた教会です。高さ13m、教会内部直径24mの750人収容できる半地下構造で1969年に竣工したものです。地震は少ないが積雪量は多く、シェル状の天井によって力を分散し放射状に広がる傾斜した180本のコンクリート偏平アーチ梁で支えています。ドーム外周の境界要素は強固な岩の塊で固まっており、構造がそのまま魅せられた美しい空間に感動しました。「構造がない建築空間など存在しない」との斎藤公男先生の言葉が思い出され、我々構造技術者の責任と喜びの大きさを改めて身に染みた建築空間体験となりました。

さて、昨年はJSCA法人化30周年記念事業はじめ多くの講習会・勉強会などが地区会含め活発に行われ、皆様のご協力のおかげで実り多い1年でした。ありがとうございました。

今年は本部のJSCA構造デザイン発表会が初めて九州支部開催となり、11月13日に沖縄コンベンションセンターにて行われます。昨年来、九州支部内準備WGと特に沖縄地区会の皆様には多大なご尽力を頂いておりますが、ALL-JSCA九州で成功したいと思っております。また今年も、建築他団体や構造関連の様々な団体様そして大学や官公庁ともより積極的に交流して講習会・勉強会を行い、「かかわりを強く」をさらに高めて行きたいと存じます。

本年も皆様の益々のご活躍とご多幸をお祈り申し上げます。よろしくお祈りいたします。

## 新年を迎えて



副支部長 重松 正幸

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。今年皆さんから頂いた年賀状では「令和」「2020」というキーワードが多く使われ、少し未来のことだと思っていた「2020」がやってきました。新国立競技場のあり方が議論されていたのは最近の様に感じますが、時が過ぎるのは早いものです。

昨年も JSCA 九州会員の皆様には活発な活動を行なっていただき感謝いたします。

その中でも「JSCA 30 周年イベント」は、平成の 30 年間を振り返るとともに、新しい令和の時代へ扉を開けたイベントでもありました。これまで尽力頂いた大先輩方に対して功労者表彰をおこないましたが、今後もベテランの皆さんの経験と知識を活かせる様、JSCA 九州は世代交代というより世代間交流が盛んになることを望みます。さて、世の中の多くの企業や個人が「2020」を目標とし走ってきた感じがしますが、人々は次の目標が見えず彷徨ってしまわないか気になるところです。

個人的には昨年後半に、10 年先「2030」に向かって目標を置きました。年明けとともに、その第一歩を気持ちよく歩み始めました。今年の JSCA 九州の活動は、九州全体が有意義になるよう取り組むと共に、建築他団体との交流も今以上に進めていきたいと思っております。最後に、JSCA 九州会員の皆様の健康とより一層のご活躍をお祈りして、新年のご挨拶とさせていただきます。



副支部長 松下 淳一

皆様、新年あけましておめでとうございます。

昨年、JSCA は法人化 30 周年を迎えました。1981 年に前身の構造家懇談会として新耐震設計法という当時新しい設計方法に対して情報交換や技術者の交流ということを目的の一つとして、構造家懇談会が設立されたと伺っています。その後法人化され 30 年後の現在に至っており、多くの皆様に支えられて当初の目的通り構造技術者交流の場となっている今の JSCA があります。ここにお礼申し上げます。

2020 年は 56 年ぶりの夏季オリンピック日本開催の記念の年で、建築界も益々発展することと期待されます。新しい技術はもちろんですが、このような時こそ今まで積み上げられてきた足元の技術に目を向けたいと考えています。

九州支部では、11 月には本部の構造デザイン発表会が沖縄で開催されます。そして例年通りの催しものも更に活発に行われることと思っておりますので、皆様ぜひご参加ください。

今後も JSCA 九州の活動を通して、九州支部会員の皆様との交流も行いたいと考えています。どうぞよろしく願いいたします。

## 技術委員会



技術委員長

(有)福岡構造 吉村 泰広

新年あけましておめでとうございます。

昨年は就任初年度ということで手探りではありましたが、8月のJSCA構造士WEB講習会開催をはじめ、10月の第4回本部技術委員会出席、11月の韓国免震制振協会創立15周年講演会での講演、12月の第4回本部技術委員会への出席など、数多くの活動の機会を得ることができました。来る2月14日には、本部・九州支部合同技術委員会が控えておりますので、皆様のご協力のもと、無事に開催できるよう努める所存です。

今年は、昨年より参加している本部技術委員の情報配信、講習会の同時中継受講を構想しています。本部の情報を皆様に広く配信することにより、知見を共有できるようにしたいと考えています。

さらに、JSCA九州支部技術委員会各部会をはじめ、九州免震普及協会、福岡建築構造事務所協会、そして、昨年ご縁がありました韓国免震制振協会とも連携し、講演会や研修会など、多くの活動の場を持つことができればと思っています。

本年もよろしくお祈りいたします。

## 設計規準系部会



設計規準系部会長

(株)織本構造設計 都筑 清

新年あけましておめでとうございます。

昨年の設計規準系部会の活動は、3月に鉄骨鋼材製品に関する勉強会、12月に(一財)福岡県建築住宅センター主催での付加制振設計に関する講習会を開催させて頂きました。大勢の方にご参加頂き、活発な質疑応答も行われ大変有意義な活動となりましたこと、会員皆様に改めてお礼申し上げます。

2019年はまたしても震度5を越える地震が各地で起こり、また台風と豪雨による大きな被害も発生した年でした。自然の脅威をなくすことはできませんが、備える側にできることはまだまだあります。付加制振講習会講師の金箱温春氏も講義で言及されていましたが、最低基準である建築基準法を安全目標とせず、現代社会にふさわしい安全とはなにか・建築の用途や地域による安全性の度合いを考えて発注者に提案していくことが構造設計者の役目であることを再確認した次第です。

今年は東京オリンピック、そして構造デザイン発表会沖縄開催の年でもあります。会員の皆様も実行委員もワンチームとなりJSCA九州にとって飛躍的な発展の年となることをお祈りして、新年のご挨拶に代えさせていただきます。

## 応答制御設計部会



応答制御設計部会長

エス・エー・アイ構造設計(株)

上野 敏範

皆様、新年あけましておめでとうございます。

応答制御設計部会では、免震構造や制振構造を、特殊なものとするのではなく、一般化することを目標に活動しております。

昨年の活動として、

- ・一昨年同様、賛助会のご協力のもと、パネル展示や免震体験車の試乗会を共催しました。
- ・勉強会として「JSCA性能設計説明書2017 勉強会」、講習会として「免震建物を想定した地盤調査及び設計用入力地震動に関する講習会」を開催しました。
- ・他の部会と共同で、免震建物見学会「ザ・パークハウス福岡タワーズ現場見学会」を開催しました。
- ・韓国免震制震協会15周年記念講演会で講演し、各種情報交換しました。隣国として、今後の構造技術者の交流が深まることを期待しています。

本年は、昨年に引き続き、免震体験車の試乗会や勉強会（告示免震設計など）を開催する予定です。また、他の部会と共同で免震建物の見学会開催を計画しております。

皆様のご理解とご協力、どうぞ宜しくお願い致します。

## 基礎地盤系部会



基礎地盤系部会長

イン・オリジン一級建築士事務所 小林 弘典

昨年、某高校のキャリア教育のゲストティーチャーとして「建築士」の仕事について高校生に話をする機会をもらいました。様々な職業の人が招かれ、生徒達は自分の興味のある職業の人の講話を聴講します。意外にも「建築」の人気は高く、旧態依然アナログな作業を基本とするこの業界にも魅力を感じる生徒達が多いことを嬉しく思い、つつい話に熱が入ってしまいました。建築業界には様々な職種があり、設計も意匠、構造、設備と分業化されていることを話しましたが、これは生徒達には意外だった様です。彼らは全てひっくり返す「建築」に魅力を感じているのであって、それに対して我々構造設計者は、その専門性に特化した作業について自己満足していないか、生徒達との対話からそんなことを思いました。「我々の仕事が未来にどの様な価値を提供できるのか」、「仕事が子供達の目に魅力的に映っているのか」客観的に振り返ることも、たまには必要かと思いつつ、今年もJSCAの活動の一端を担える様、微力ながら頑張ります。本年もよろしくお願ひいたします。

## 鉄筋コンクリート系部会



鉄筋コンクリート系部会長

(株)大林組 木村 正人

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、九州北部豪雨や台風19号による水による災害が頻発し、地震や風とは異なる自然の力に脅威を感じました。一方、今年は「東京オリンピック」開催やJSCA構造デザイン発表会を沖縄で開催することもあり、何かと賑やかな年になることが期待されます。

昨年の活動は、9月に西日本圧接業協同組合との共催で「鉄筋継手の勉強会」を開催し、多数の方にご参加いただきました。今年は、2月に配筋基準の理解向上と日頃の悩み解決を目的に少人数での「配筋基準の読解勉強会」、また、時期は未定ですが「RC造の最新技術講習会」を開催する予定にしています。

今年の活動も引き続き、品質確保や労務不足対策に着眼し、研鑽の場を提供していきたいと考えています。ご理解ご協力の程、よろしくお願い致します。

## 鉄骨系部会



鉄骨系部会長

ワンス設計事務所(株) 尾宮 洋一

新しい元号令和になって初めての新年を迎えました。今年は、十二支の始まりの年にあたる子年です。ネズミ年の人の性格は「ネズミ＝寝ず身」とされ、真面目にコツコツと働く人が多いとの事ですが、いかがでしょうか。

昨年は、トランプ大統領の暴走は中国に向けられ、その影響は全世界に伝染しています。日本国内は消費税増税が行われ、景気は若干冷え込んでいる状況に感じられます。

建築業界は、オリンピック建設がひと段落し沈静化した時期を迎えているようです。鋼材やボルトの入手困難は山を越していますが、人手不足は常態化し手放しに喜べるには至りません。

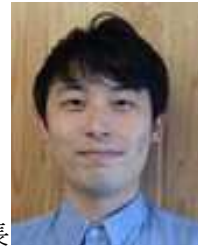
鉄骨部会では昨年4月、「役に立つ鉄骨最新技術」の講習会を開催しました。来年、3月までには見学会を開催したいと考えます。

また、鋼構造サブネットワーク主催の活動ですが、シニア部会と青年部・なでしこ会と協同で「ちからのしくみ発見」と言う小中学生に対する建築鉄骨に対する啓蒙活動としての出前講座を実施します。

鉄骨部会は、会員各自が抱える鉄骨関連の疑問や問題を解決する場として、活用して頂ければと考えますので、要望や意見をお聞かせください。

本年も会員のみなさまざま、健康には充分気をつけて、実りある1年を過ごしてください。

## 木質系部会



木質系部会長

(株)川崎構造設計 宮崎 大介

皆様、新年あけましておめでとうございます。

昨年7月には、山田憲明氏に「木造建築物の構造計画と事例」という表題で講演会をして頂きました。福岡県建築住宅センター様、九州住宅保証(株)様のご協力のもと、無事開催することができました。ご参加頂いた方が少しでも木造建築の構造設計に興味を持ち、実際に取り掛かるきっかけ作りができたかと思っております。

木材利用促進について、JAS 製材の利用拡大の声が各地で上がっております。JAS 製材利用が広がれば、構造設計者としてばらつきがある木材をより利用しやすくなるかと思っております。

本年も防耐火関係の法令改正等をはじめ、最新情報を皆様と共有すべく講習会や見学会を計画したいと思っております。

## 特殊構法部会



特殊構法部会長

(株)ピーエス三菱 石井 孝幸

新年あけましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては、心新たに清らかな新年をお迎えの事と思います。

昨年を振り返りますと、新天皇陛下のご即位、「令和」に改元とおめでたい年でした。一方で風水害に悩まされ、首里城焼失など火災や事故、自然災害に心痛めた年でした。8月28日には佐賀県、福岡県、長崎県に対して大雨特別警報が発表され特に佐賀県で雨が集中しました。被災された方々には衷心よりお見舞い申し上げます。特殊構法部会のPCa工場見学会も特別警報発表のため朝一番で急きょ延期としましたが、危機管理の甘さから参加予定者に緊急連絡が行き届かずご迷惑をお掛けし、備えの大切さを痛感しました。

今年は37番目の干支で「庚子(かのえ・ね)」の年です。庚子は変化が生まれる状態、新たな生命がぎざし始める状態で全く新しいことにチャレンジするのに適した始まりの年だと言われています。

特殊構法部会も、新しいことにチャレンジする「他の部会に属さない特殊な構法、構造をテーマに広げる」を頑張ります。皆さまの要望や意見などをお聞かせください。

本年も引き続き特殊構法部会運営に関しましてご支援をよろしくお願いいたします。

## 耐震改修部会



耐震改修部会長

能勢建築構造研究所(株)

奥野 賢二

あけましておめでとうございます。

「天災は忘れたころにやってくる」という言葉がありますが最近では忘れる間もなく毎年のように大きな自然災害が発生しております。昨年も8月には北部九州で集中豪雨による洪水が発生し9月には関東地方で台風による大きな風水害が発生しました。幸いなことに昨年は大きな被害を伴う大地震の発生はありませんでしたが地球が地震の活動期にあるとの説もありますので地震や台風に対する備えは常日ごろから必要であることと思われまます。未だながら古い建物の耐震化、特に木造住宅の耐震化については道半ばの感が致します。耐震改修部会におきましても耐震診断並びに耐震改修の必要性を地域全般に啓蒙してゆきたいと考えております。そのためにも勉強会や講習会を行ってゆくつもりでおりますので皆さまのご協力を宜しくお願い致します。

## シニアアドバイザー部会



シニアアドバイザー部会長

(一財)福岡県建築住宅センター

大塚 真裕

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、令和という新しい時代がスタートしました。そのような節目の年にJSCAは法人化30周年を迎えることとなり、九州支部における周年記念イベントも無事終えることができました。ご関係された皆様、ご参加下さいました皆様ありがとうございました。また、私自身も昨年、38年間勤務していた会社を退職し、4月より新しい機関での仕事をスタートさせ人生の節目を感じているところです。今年は東京オリンピックが開催される年となり、さらに2025年の大阪万博開催を控え、ますます我々を取り巻く環境も活性化していくことと思います。

さて、シニアアドバイザー部会は、12名のコアメンバーでスタートし基盤を作成してきましたが、コアメンバー個々の活動や外部機関からの依頼により活動域を少しずつ広げています。今年はメンバーの拡大をはかるとともにさらに活動の輪を広げていきたいと思います。

会員が長くJSCA活動に係わっていただける活動の拠点として、会員相互の親睦をはかりつつ、皆さま方の豊富な経験を次世代に伝承するための活動を行って行きたいと思っておりますので、JSCA九州のネットワークをさらに強いものとするためにも、多くの皆さま方の参画をお願い致します。

## 会員委員会



会員委員長

Y's 構造設計 横山 英一

新年明けましておめでとうございます。

会員委員長として4年目となります。微力ながら、皆様のお力添えにより昨年1年の活動を終えることができましたことを皆様方へお礼を申し上げます。私ごとではありますが、昨年末に設計事務所を開設し、本年は初心に戻り構造設計という仕事に取り組みたいと考えております。

昨年の11月22日に開催いたしました拡大役員会後の賛助会員様との懇親会におきましては、30周年記念イベントの一環として講演会および功労者表彰も行われ、より多くの方に参加していただくことができました。本年も役員及び賛助会員様のより有意義な交流の場となりますよう、尽力いたします。

賛助会員は現在87社となり、これも会員及び賛助会員の皆様のご協力あつてのことと心より感謝申し上げます。今後も賛助会員の増強に努めるとともに、会員・賛助会員の皆様の交流促進を図る取り組みを進めていきたいと考えております。

皆様にとりまして実りある1年となりますようお祈り申し上げます。

本年も、何卒宜しくお願いいたします。

## 青年部会



青年部会長

(有)福岡構造 安達 亮平

皆様、新年明けましておめでとうございます。

昨年は Structure152号 (JSCA 西日本特集) と JSCA 法人化 30周年記念イベントの実行委員を多数の青年部会のメンバーと一緒に企画・運営を行うという大変思い出深い一年となりました。地区会のみならず、なでしご部会の方々を含め、ご協力頂いた関係各位には大変お世話になりました。誌面をお借りして心より御礼申し上げます。

特に30周年記念イベントについては、私も含めて経験が乏しい中での企画となりましたが、みなで協力して知恵を出し合い、イベント当日を盛況のうちに終了できたことは、非常に貴重な体験となりました。

今年の活動として、昨年はイベントなどもあり、あまり勉強会などを実施できませんでしたので、勉強会や意見交換会を企画し、楽しみながら学び、切磋琢磨しながら活動できればと思います。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。



## なでしこ会



なでしこ部会長

(有)中野構造設計 松田 千恵

あけましておめでとうございます。

昨年より部会長を浅田さんから引き継ぎました。皆様のお力添えをいただきながら、活動してまいりました。どうもありがとうございます。

昨年はなでしこ部会長として、**structure** への執筆、30周年記念事業のシンポジウムへの参加と貴重な経験をさせていただき、なでしこ会の活動について紹介いたしました。シンポジウム内でも話しましたが、なでしこ会は成長期にあると思います。会員の増加、個々の技術研鑽はもちろん、会内での疑問の共有や勉強会など今年も活動を進めていきます。また、青年部会や他団体の建築に関わる女性達とも情報交換をしつつ、何か新しい活動を展開できればと模索しております。

本年も皆様のご協力とご支援に感謝しながら、“共感力”を大切にしつつなでしこ会らしい活動を続けてまいります。どうぞ宜しくお願い致します。

## 広報委員会



広報委員長

オリエンタル白石(株) 福田 顕議

JSCA九州支部会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い致します。広報という名の通り、2020年もJSCA九州支部の魅力を会員その他一般の方々に、広くわかりやすくお知らせしていく所存です。毎年恒例ですが、広報委員会最初の仕事は、このメール版新春号の編集と配信です。役員の皆様、地区会幹事の皆様、お忙しいところ新年早々の執筆ありがとうございました。

今年はJSCA構造デザイン発表会が沖縄で開催されます。事前準備や打合せ等、成功へ向けて広報委員会も微力ながらお手伝いさせていただきます。また、一人でも多くの参加者が沖縄に行かれるよう、ホームページ<http://jscakyushu.jp/>等で告知していきたいと思っております。皆様ぜひご参加下さい。充実した広報のため、皆様に執筆等ご協力頂くこともあるかと思っておりますが、その際は何卒宜しくお願い申し上げます。

## 事務局



事務局長

(株)JE 構造設計 恵藤 宏光

皆様、新年あけましておめでとうございます。

今年度は九州支部におきましては、九州支部支部長に今林光秀氏が就任されました。「関りを強くする」というテーマのもと、講習会や様々な活動に対して活発な参加や発言といった動きが昨年より根付き始め、今年はこの動きがさらに大きくなっていくものと予感しております。

去年は部会や地区会で開催された講習会や勉強会に加え、JSCA 法人化 30 周年を記念したイベントが九州支部でも行われました。企画・運営に携わった皆様、発表者の皆様、参加された皆様のおかげで大変盛会となりました。事務局も総出で準備に追われましたが無事に終わられて安心しております。振り返ってみますと例年よりも事務局の業務に費やす時間が長くなったことは確かですが、新しい経験を通して充実した一年になったと思います。

さて今年度はデザイン発表会 in 沖縄がいよいよ開催されます。デザイン発表会 WG メンバーの皆様は、通常の業務を行いながらの準備となりますので、多忙を極めることと思います。事務局の方も未知の世界に足を踏み入れる様な感覚で多少の不安を抱えておりますが、相互に協力し合いながら「ONE TEAM」として、この大きな行事を成功に導いていければと考えております。会員の皆様、賛助会の皆様のご協力も不可欠ですので、「ONE TEAM」として増々ご参加いただきます様、何卒よろしくお願いいたします。

加えて、例年通り今年度も会員の皆様への円滑な情報伝達を行うべく事務局として活動していきたいと思います。会員外の皆様も活動をご覧になられた方々には、新規会員として入会頂ければ幸いです。今後とも、会員・支部幹事・地区幹事の皆様・賛助会員の皆様よろしくお願いいたします。

## 地区会報告



北九州地区会幹事

(株)松尾設計 牛尾 忠信

令和2年、明けましておめでとうございます。

北九州地区会の幹事として4年目の終盤となりました。昨年は、7月に第1回役員会を西日本工業倶楽部にて行いました。支部長の今林様はじめ九州支部役員の方々、九州各県の幹事様、多数ご参加いただきありがとうございました。また、昨年11月には、「北九州市の産学官が連携した第10回建築構造系講演会」を国際会議場で開催しました。北九州市役所と共催のもと、北九州市の学校関係のご協力を頂き実施しています。北九州市の大学関係の先生及び学生、北九州市、その他設計の方で総勢80名程となりました。講演は、北九州市建築指導課より北九州の耐震対策について、次に文化財建造物保存技術協会 今岡様に、文化財保存に関する足跡と題して、重要文化財である旧下関領事館、門司港駅の概要、補強要領についてご講演頂きました。また、九州支部支部長今林様より、空間を創る構造 ～その楽しさと責任～ と題して、これまで設計されたこと、海外を訪れた時の写真などをもとに設計について、特に、参加頂いた学生に向けて、ご講演を頂きました。ご講演頂きました方々、ご参加頂きました方々、たいへん有難うございました。

また、この1年、新たな気持ちで活動したいと思います。今年の目標も昨年同様ですが、「なかなか増えない会員数を増やしたい、産学官のほかにも何かしたい。」と考えています。

本年も宜しく願いいたします。



佐賀地区会幹事

(有)金子建築設計事務所 金子智洋

新年あけましておめでとうございます。佐賀地区幹事を引継ぎ2年目となりました。

近年九州各県においても地震被害だけではなく、台風被害、降雨被害などの災害も毎年のようにおこり特別警報が発令されております。そこで2月に佐賀大学理工学部都市工学科から3名の先生をお招きし災害対策勉強会「佐賀の災害に備える」を行い、斜面災害や自然災害への適応策、大規模浸水時における防災・減災の取り組み等について解説して頂きました。6月には山田憲明氏に「大きな建築も木構造で作れる」で講演を頂き、大空間の建物や住宅など小規模な建物でも応用できる木の使い方などを解説して頂きました。10月には「大スパン構造における斜め格子母屋工法」の勉強会を許斐信三氏、前原智氏、岩永将信氏に解説頂き、同じく10月に「小梁接合ガセットプレート」の断続隅肉溶接接合法（ハイスキップ工法）を山本茂己氏に解説して頂きました。ご教授頂いた皆様、また関係者の皆様に感謝申し上げます。

これからも勉強会や見学会などを行い技術の向上を図り佐賀地区会も活動して参りたいと思います。本年もどうぞ宜しくお願い致します。



長崎地区会幹事

(株)オカザキ設計室 岡崎 克喜

新年あけましておめでとうございます。

昨年6月に「増田一眞先生講演会・作品展」を開催しました。先生には“建築工法の変革—構造から現代建築への提案”をテーマにご講演いただきました。また作品展においては模型や著書等の資料を多数準備していただき、3日間において多くの皆様に来場していただきました。本当にありがとうございました。9月には日本製鉄グループのご協力を得まして、製品および技術勉強会を開催しました。11月には前JSCA東北支部長の加藤重信先生をお招きしまして「指定構造計算適合性判定機関」による構造判定に関する講習会を開催しました。今年も1月から第6回となる長崎県鉄構工業会との合同懇談会を開催します。年間を通して活発な活動ができたと考えています。

また今年は若手の方に活躍していただく一歩にできればと考えています。若手が積極的に前に出て意見交換したり、提案したりできる地区会を目指したいと考えております。九州支部の皆様とともに地区会会員が一丸となって活発に活動していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。最後に会員の皆様および賛助会員の皆様のご健勝とご多幸をお祈りいたします。



大分地区会幹事

(有)ケイシン設計 山本 伸二

皆さま、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。平成30年12月、平成最後の地区総会で幹事に任命され、新年号令和から地区幹事をさせて頂いています。振り返りますと2003(H15)年頃、大分地区会の活動では多くの活動や参加の協力をさせて頂きました。その後15年間を大分地区執行部の活発な行事の取り組みを楽しみながら有意義に参加させて頂いておりました。前任者の幹事の方々の思いと共に今後の建築構造技術者のお手伝いやJSCA九州支部の発展に寄与できる活動ができればと思っています。

昨年度からの3つの取り組みは、大分地域会協力会の発足/若手構造技術者の育成としてSYO (Structure + Young + Oita)の復活/大分地区常設委員会の発足です。ありがたく皆さまのご協力で昨年末に完了し本年度は活動を主に、地区会の活性化や発展につとめて行きたいと思っています。今後はいろんな形で会員方々の協力をお願いする事が多くあると思います、是非ご協力をお願いいたします。最後に皆様のご健勝とご多幸をお祈りいたします。



(会員 18名、  
SYO5名、  
協力会 29名)



熊本地区会幹事

(有)かいしん設計室 甲斐 信親

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、「東京オリンピック施設を見学する」という企画を熊本のNPO法人「ケーピック」と合同で実施したところ多数参加を頂きました。施設内部の見学は出来ませんでしたが、参加者からは最新の建築技術や都会の雰囲気に触れてこれからも「頑張るばい」という声が聞けてうれしく思いました。一月にはこの時の報告会も企画していますので支部会員の親睦ややる気及びひいては会員の増加につながれば期待しています。さて、最近「公共建築物等木材利用促進法」の掛け声に伴い木質構造設計に関する講習会や、実施設計に触れる機会が増えてきたように思います。今のところ木構造を専門している構造事務所は少ないように思います。これは、若手構造技術者にとっても一つのチャンスではないでしょうか、若手構造設計者の増員及び育成等も鑑みこれからも積極的に協力して行けたらと思っています。



宮崎地区会幹事

WADA建築研究所 和田 哲夫

新年あけましておめでとうございます。

昨年は豪雨により土砂災害、堤防決壊による浸水被害と自然の脅威に対応できてない社会環境に思うところがありました。建築界ではオリンピックに関連する建物が多く建設され、それに関係するかどうか判りませんが高力ボルト不足による構造変更、工期の延長と振り回された年でした。宮崎地区だけかもわかりませんが、構造設計者の高齢化、リタイヤ等がすすんでいますので若手の構造設計者や構造に興味がある方の入会を推し進めているところです、そのためには魅力ある地区会にすべく宮崎でも、九州デザイン発表会の宮崎版等などを行い魅力ある会にしたいと思っております、また昔は特殊な応力解析はいろいろとモデル化し安全性に余裕をもたせ設計していましたが、今ではいろんな構造解析ソフトがあり、そのままの形状で検証できバックデータとして、また検証値として安心感を持つことができますのでそういった講習会も行い幅広い構造設計ができるようにと思っております。魅力ある研修の場としての地区会が機能していくことで構造設計者の育成、技術の向上を目指す必要があると思っています。

今後も九州支部の大きな組織の力をおかりし宮崎地区の向上を目指したいと思っております。



鹿児島地区会幹事

(有)中村設計・補償コンサルタント事務所 中村 数喜

令和2年 新年のご挨拶を申し上げます。

2020年という節目に日本ではオリンピックが開催されること、JSCAでは設立30年という節目にわが九州沖縄で構造デザイン展が開催されること、2020年は我々にとってさらに飛翔の年となること間違いのない様に思います。

鹿児島地区会は、昨年、阿久根 風テラスの見学会をスタートに活動をしてきました。おかげさまで意義のある地区活動ができていると思っています。活動を超えて、建築特に構造を志す仲間はどこかでつながっていると感じています。

新年は、鹿児島地区会からもおおぜいで沖縄に出向こうと思います。本年、さらなる飛翔の年でありますように、九州支部会員の皆様のご活躍を祈念しつつ新年のご挨拶といたします。



沖縄地区会幹事

株式会社 ケイ・ツー設計 小波津 和也

明けましておめでとうございます。

2019年が皆様にとって真に良い年となることを心より祈念しています。昨年における活動事業は、自己研鑽事業として①建築基礎設計の実技講習会 in 沖縄開催、②JSCA沖縄地区会デザイン発表会、若手技術者育成事業として、琉球大学及び沖縄職業能力開発大学校学生を対象に「奥野親正（ちかまさ）講演会&パネルディスカッション」開催と講習会などを行いました。例年沖縄地区会から10数名程度の参加をしているJSCA本部の構造デザイン発表会にて2020年11月13日九州支部沖縄開催決定のPR活動を行いました。今年は、新たな指摘事項を含む「構造設計適合性判定セミナー開催 共催：日本建築総合試験所」を開催し建築確認申請に係る作業時間軽減を目的とする講習会の開催、6月末には地元大学生を対象とした若手育成事業の講演会開催予定としています。又、11月12日（木曜日）「九州支部役員会」と翌日13日（金曜日）にはJSCA本部「構造デザイン発表会 in 沖縄」開催となっていますので、本部・九州支部・沖縄地区会と連携を取りながら準備に取り掛かりたいと思いますので九州支部の皆様のご協力お願い致します。役員会・発表会終了時は九州支部と沖縄地区会が一層連帯感を得られるよう頑張っていきましょう。